

人間生活工学ワークショップ

「暮らし変化とこれからの人間生活工学モノづくり」

日時:2014年11月7日(金曜)13:30~17:00(13:00より受付開始)

場所:早稲田大学 西早稲田キャンパス 55号館2階第3会議室(東京都新宿区大久保3-4-1)

主催:早稲田大学創造理工学部人間生活工学研究室・(一社)人間生活工学研究センター(HQL)

高齢社会,世代ごとのライフスタイルや嗜好の多様化,ITをはじめとする新技術の生活への浸透など,暮らしを取り巻く事情は大きく,ゆっくりと,しかし一方では急激に変化してきており,それらは生活価値観,そして暮らしそのものに対して循環的に大きな影響を与えています.そうであれば,今までのモノづくりの視点も,大きく変わらざるを得ません.今回のワークショップでは,そうした社会や生活の変化を捉え,認識し,モノづくりにどのように活かしていくか,3名の演者の方から話題を提供していただき,これからのモノづくり(有体・無体含めて)に展開して行くことを目標としています.

(司会:早稲田大学創造理工学部 経営システム工学科 小松原明哲教授)

1 「生活者1万人アンケートにみる日本人の価値観・消費行動の変化」

松下東子先生:株式会社野村総合研究所 消費サービス・ヘルスケアコンサルティング部主任コンサルタント

野村総合研究所(NRI)では1997年から3年ごとに日本の生活者1万人に対し,生活価値観や消費意識などについて,長期時系列調査を行っています.2012年はその調査実施年にあたりましたが,東日本大震災という未曾有の災害を経験した日本人の価値観変化や,情報過多時代ともいえる現代の消費者の情報収集行動や消費意識・行動について,さまざまな傾向が見えてきました.これらの日本人の長期的な価値観変化や,直近での目立った動向などをご紹介します.

2 「イマドキの「子育て共働き家族」 暮らし・すまい」

入澤敦子先生:旭化成ホームズ(株) 共働き家族研究所 所長(一級建築士・東京家政大学非常勤講師)

弊社では,暮らし変化と住まいのありようを求め25年前から共働き家族を研究してきましたが,最近の調査から,ポスト団塊ジュニア世代が,子育て共働き家族をけん引していることが分かりました.特に夫婦の「イマドキ感」を分析.その関係はフラットで,夫の家事/育児参加が,これからの男女協働型社会を拓く鍵になると確認しました.そんな彼らを すまい・くらしづくりから支援する商品及び設計提案をその開発経緯も含めてをご紹介します.

3 「花王が実践するVOCを活かした“よきモノづくり”:超高齢社会に向けたユニバーサルデザインの取り組み」

登坂正樹先生:花王株式会社 生活者コミュニケーションセンター センター長

日本の高齢化率は約25%,実に4人に1人が65歳以上という状況です.花王の消費者相談窓口には年間約18万件の相談が寄せられますが,世相を反映して年々高齢者からの相談が増えています.花王では高齢化の進行により良く対応するため,ユニバーサルデザインの推進に取り組んでおり,推進活動の様子を実例を交えてご紹介いたします.

4 質疑とディスカッション



【参加のご案内】

どなたでも参加できますが,事前にお申し込み下さい.会場の都合により先着50名まで受け付けます.

申し込み先:人間生活工学研究センター東京事務所 kouza@hql.jp (FAX:03-5405-2143) 氏名と所属・連絡先, HQL 会員にはその旨を明記して下さい.

参加費:2000円(HQL会員は1000円).当日受付にて支払い.

会場は東京メトロ副都心線「西早稲田」駅下車が極めて便利です(早大理工方面出口がキャンパスに直結).